

当院にてご加療中の方およびご家族の方へ

当院では「透明化臓器を対象にした新規分光測定技術の医学応用研究」に参加しております。この研究は臓器透明化技術と様々な分光技術を組み合わせて用いた新規の測定技術を開発し、医療・医学研究における全く新しいアプリケーションシーズを見出すために、東京大学理学部・工学部と共同で行われる共同研究です。

【対象となる方】

1980年1月1日～2023年6月30日の間に当院を受診し、採血・生検検査及び病理解剖を行った方

【研究の意義】

従来、細胞レベルで臓器の立体構造を解析するには、連続切片を作成して顕微鏡で観察する以外に無く、多大なコストと時間を要しながらも切片変形は避けられず、労力に見合う成果はなかなか得られませんでした。透明化した臓器を一塊のまま観察し、三次元データを取得・解析することができれば、この問題を解決できます。

【研究の目的】

臓器透明化技術と様々な分光技術を組み合わせて生体組織・臓器を薄切することなく一塊のまま立体的に観察することにより、既存の医療・医学研究の分野に存在しなかった新しいアプリケーションを模索し、病気の診断と治療に役立つ新技術を開発します。

【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、東京大学医学部倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療の過程で採取させて頂いた血液・生検検体、および病理解剖検体のうち、一般的な学術研究に用いることを、患者さんご本人やご家族に文書でご同意いただいた検体を用いて行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究では、プライバシーの保護のため、個人情報には匿名化されます。検体や研究データは東京大学から外へ移動することはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしい場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで令和6年5月31日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示します。下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

令和1年7月1日

【研究機関名】東京大学理学系研究科・東京大学工学系研究科・東京大学医学部附属病院

研究統括医師：東京大学医学部附属病院 神経内科 助教 長島 優

本研究に必要な資金は、文部科学省 研究成果展開事業 革新的イノベーション創出プログラム「コヒーレントフォトン技術によるイノベーション拠点」より拠出します。

本研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院神経内科 助教 長島 優

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-3815-5411（内線37541） FAX：03-5800-6548

Eメールでのお問い合わせ：nagashima-tky@umin.ac.jp

医療機関名 東京大学医学部附属病院

診療科名 神経内科 診療科責任者名 戸田 達史